

みどり通信

第48号
2025年10月1日

2025

10

令和7 神無月



蛭が岳

大山と

丹沢連峰

稜線

紺碧の



福耳と

自分の耳を

こする朝

我がままに

健気に生きる

人のいて

「東慶寺の桔梗」

秋野文子

この時期、私は鎌倉、東慶寺の桔梗を何度か見た。

青紫色の桔梗を尼寺の境内で見るとは清々しかった。

初めは息子と円覚寺の北条時宗の墓を訪れ、向かいにある妻の覚山尼の東慶寺に行った。

みどり会の冊子にも投稿したことがある。

ずいぶん昔のことだ。

東慶寺は小さな尼寺で北鎌倉の駅の近く、行き易かった。

その後も一人で短い時間でも電車に乗って訪れていた。

まさか井上ひさしの<東慶寺>が彼の絶筆になるとは……。

「お彼岸」

秋野文子

秋分の日、秋の彼岸はホームで、お萩のお八つが出る。

先祖を偲ぶということは特にない。

ただ一つ、江戸時代生まれの曾祖母と 10 年も一緒に暮らせた私は幸せだったと思う。

日中、二人で過ごしても 5 歳の私が面倒をみてもらっているという感覚は全くなかった。

仏壇前に座って縫いものしている周りで私はチョコチョコしていた。

話しかけたり綾取りみたいなことをしたこともある。

ある時、絵本のペンギンのことになり私が、いくら教えてもペンギンになってしまったことがあった。

縫いものは小さな布をつなぎ合わせた腰ひもで、作っては人にあげていた。

それはそれは綺麗なもので、今でいうパッチワークと思う。あまり布を組み合わせた素晴らしい作品で、もらった大人の笑顔もあった。

「喜怒哀空楽」

ふあ爺

「喜怒哀空楽」は、精神科医 北山修 ie「帰って来た酔っ払い」でデビューしたフォーククルセダーズ きたやまおさむ の造った五字熟語。

「喜怒哀楽」という四字熟語は、まさに人生の味わいを表している。北山はこれに「空」を加えることを提唱している。つまり、「虚しさ」を味わいなさい、と言うのだ。

配偶者の死のように、自分のすべてを注ぎ込んだ相手が逝ってしまうと、その人は全てを持って行ってしまうので、残されたものは耐え難い空虚に襲われる。

だがこれも、人生の大きな味わいなのだ。でもどうやって味わう？ 北山はため息をつきなさい、と言う。ため息は空しさを味わう行為である。ため息をついている人に「ため息をつくると幸せが逃げる」などとチャライことは言うべきではない。





編集後記

ようやく秋の気配になってきた。

金木犀も朝夕、冷え込まないと咲かない。

10月中に、あの香りも漂うだろう。楽しみにしたい。

秋野

midori2shin@gmail.com

